

事務事業マネジメントシート(平成28年度実績と平成29年度計画)

平成29年 7月25日更新

事務事業名		幼児フッ化物塗布・洗口事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	2	福祉の健康			所属部	健康福祉部	課長名	澤田 勝矢
	施策	5	健康づくりの推進			所属課	健康づくり推進課	担当者名	水口 璃香
	施策の柱	20	病気の早期発見			所属班	健康推進班	(内線)	2130
予算科目		会計一般	款4	項1	目6	事業連番10373	根拠法令	成果優先度評価結果：② コスト削減優先度評価結果：⑪	
終了、開始年度		☒ 28年度で終了 ☐ 28年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	【フッ化物塗布事業】平成13年度より実施している。1歳6ヵ月から3歳までのむし歯が急増する時期に効果的なむし歯予防策と歯についての知識を得る機会を増やすという目的で実施。①対象者：1歳6ヵ月児健診終了者～3歳児健診対象者 ②実施方法：1歳6ヵ月児健診・3歳児健診会場にて実施。お口の健康手帳・母子健康手帳持参。料金は無料。③実施回数：6ヵ月毎に希望者へ塗布。④周知方法：1歳6ヵ月児健診時に事業の周知を行う。また、すこやかカレンダーに掲載。市でのフッ化物塗布が終了となる3歳児健診において、フッ化物塗布の継続を呼びかけるチラシ(手作り)を配布し、啓発を行う。 【フッ化物洗口事業】永久歯のむし歯予防を目的として、平成24年度から希望する認可保育園8園でフッ化物洗口を開始した。平成28年度には計20園で洗口を実施している。①対象者：年長児および年中児 ②実施方法：週5回、歯磨きの後に1分間、洗口液を用いてうがいをする。年に1回、各保育園において保護者説明会(保健師、歯科衛生士)を実施し、年に1回、歯科衛生士による訪問指導を実施している。
【業務の流れ】	【フッ化物塗布】必要な物品(塗布液等)の購入→お口の健康手帳(HAPICA)の印刷→1歳6ヵ月児健診時に事業についての説明を行い、お口の健康手帳(HAPICA)を渡す。歯科衛生士よりフッ化物塗布。市でのフッ化物塗布が終了となる3歳児健診においては、フッ化物塗布の継続を呼びかけるチラシ(手作り)を配布し啓発。アンケートの整理・入力。 【フッ化物洗口】関係機関(保育園、園歯科医、歯科衛生士等)との連絡調整を行い、開始前に、保護者説明会を開催し、保護者の希望調査を実施する。月に1回、実施報告書の提出があるため、各施設の実施状況の把握。年に1回、歯科衛生士を派遣し、指導を行う。薬剤と物品を購入、保管・管理している。
【主な予算費目】	賃金、旅費、需要費(消耗品費、印刷製本費、医薬材料費)
【意見や要望】	フッ化物塗布については、啓発が進んだため、保護者が自ら歯科医院に受診して塗布をしているケースが増加している。市での塗布が終了となる3歳児健診にて、フッ化物塗布の継続を呼びかけるチラシの配布を開始したことについて、「とてもわかりやすい。」「こういう効果があるなら、ぜひ今後も塗布を続けたい。」という保護者からの声がある。 また、フッ化物洗口については、派遣している歯科衛生士より、子ども達の歯がきれいになったとの報告があがっている。小中学校でも開始するなら、就学前の準備として始めたいという園の意見もある。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分: 29年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 今年度も同様に実施する。また、フッ化物洗口については実施園の拡大を目指し、園データの集計や実施園の取り組み状況等を未実施園に示していく。	
① 手段(主な活動) 28年度実績(28年度に行った主な活動)(DO) むし歯予防の一環として、①1歳6ヵ月児健診及び3歳児健診でお口の健康手帳(HAPICA)を活用してフッ化物塗布を行った。②市でのフッ化物塗布が終了となる3歳児健診においては、フッ化物塗布の継続を呼びかけるチラシ(手作り)を配布し、啓発した。③フッ化物洗口事業は、保育園等で保護者説明会やフォローアップ指導を通して、ブラッシングと甘味制限を併用したむし歯予防方法の啓発を行った。 【実績】フッ化物塗布：1歳半 704件、3歳 632件、塗布のみ 113件 フッ化物洗口実施者数 認可保育園及び私立幼稚園の計20園で685人			
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由	
→ ア: 塗布者数(再掲)	人	園児数増加による消耗品費の増	
→ イ: 開催数	回		
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
フッ化物塗布：1歳6ヵ月児健診対象児～3歳児健診対象児	人	→ ア: 1歳6ヵ月～3歳児の数	
フッ化物洗口：年中児および年長児	人	→ イ: 年中・年長の幼児数	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)	
むし歯にならないようにする(う歯の保有率の低下)	%	→ ア: 3歳児のむし歯の保有率	
	人	→ イ: 保育園・幼稚園での実施者数	
*③成果指標設定の理由と29年度目標値設定の根拠			総トータルコスト
フッ化物塗布を行うことにより、う歯保有率に良い影響があるかを把握するため、塗布終了時(3歳児健診)におけるむし歯の保有率を成果指標として設定した。前年度より若干減少していることを見込み、平成29年度の目標値を設定した。			全体計画 ～ 年度
			0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	26年度 実績(決算)	27年度 実績(決算)	28年度 目標(当初予算)	28年度 実績(決算)	28年度 目標(当初予算)	予定	見込	見込
① 活動指標	ア	人	1,461	1,451	1,500	1,449				
	イ	回	48	48	48	48				
② 対象指標	ア	人	1,791	1,830	1,900	1,827				
	イ	人	1,471	1,481	1,500	1,530				
③ 成果指標	ア	%	14.96	14.69	13	13.2				
	イ	人	424	654	700	685				
投 入 費 用	財 源	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円	107	227	180	93			
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	485	93	391	245			
	人 件 費	(A) 事業費計	千円	592	320	571	338			
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0			
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0			
		正職員員従事人数	人	5	4	5	5			
入 費 用	延べ業務時間	時間	716	715	720	742				
		(B) 人件費計	千円	581	542	2,868	0			
	トータルコスト(A)+(B)		千円	1,173	862	3,439	338			

事務事業名	幼児フッ化物塗布・洗口事業	所属部	健康福祉部	所属課	健康づくり推進課
-------	---------------	-----	-------	-----	----------

2 評価の部（CHECK）

*原則は28年度の事後評価、ただし複数年度事業は28年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①28年度目標達成度評価	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【理由】 3歳児におけるむし歯有病率は目標を達成した。むし歯になる要因は、個々の生活習慣とも密接に関連しており、フッ化物塗布をするだけでむし歯にならないというものではないため、健診時にフッ素の利用と併せて、甘味制限やブラッシング指導を行なったことがむし歯減少につながったと考えられる。 また、フッ化物洗口については、実施園が拡大したため、実施園児数も増加した。
	②29年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 フッ化物塗布時の歯科保健指導を行い、各家庭の歯の健康に対する意識を少しでも高めていけるよう努めていく。 また、今年度小中学校においてもフッ化物洗口を開始したため、就学前の準備段階として新たに開始する園が増えた。
有効性評価	③成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 フッ化物洗口事業では、幼児期に園児や保護者に対する歯科指導の機会も増えるため、指導内容を充実させて、さらなるむし歯予防効果を高める。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある⇒（具体的な手段、事務事業） ☐ 他に手段がない ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 平成29年度からは歯科保健関係を歯科保健事業として統合し、事務量の軽減を図る。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 フッ化物塗布については、幼児健診時に同時に実施することで、合理的に実施できている。フッ化物洗口については、導入期でもあるため、事業に従事する保育士の負担軽減を考慮したうえで、最小限の事業費で実施しているため削減はできない。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 フッ化物洗口については、委託では事業費の増加となるため、幼児健診時に同時に実施している。また、健診スタッフで対応できているため効率的である。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 対象を限定しているが、予防的事業であるという目的のため適切である。また、費用負担は適正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 フッ化物塗布については、市の幼児健診と同時に実施しているため、他団体への事業の移行はできない。フッ化物洗口については、園職員に実務を任せており、役割分担は適正である。

3 評価結果の総括（CHECK）

むし歯の予防法としてブラッシングや、フッ化物の利用方法（塗布、洗口）を健診や保育所の場で周知し、健診が終了した後も、家庭で自ら予防法が継続できるように働きかけていく。また、保育所でフッ化物洗口を実施することで、就学までの歯科保健へのかかわりの場ができたので、この機会に、むし歯予防法を広く周知していく。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☒事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☒事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない） フッ化物塗布については、健診をきっかけとしてフッ化物によるむし歯予防を知る最初の機会であるため、健診後も継続して歯科医院と塗布ができるように指導していく。 フッ化物洗口については、実施園を拡大できるよう、園の負担軽減と保護者への啓発をさらに進める。 平成29年度から歯科保健事業に統合する。		(2) 改革・改善による期待成果 （廃止・休止の場合は記入不要） <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		○																					
	維持																							
	低下																							
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策 フッ化物洗口については、園の負担感と薬剤への不安感が実施園に向けた最大の課題となっている。未実施園には、既に実施している園の状況を共有し、専門機関と連携しながら正確な情報を提供する必要がある。																								